
**日世 株式会社 様**
**導入機種 / 導入時期 ▼**

YVC-1000: 1台 (2014年7月)


PJP-50USB: 7台 (2009年6月)

PJP-20UR/25UR: 18台 (2009年6月)

**基本構成 ▼**

ジャパンメディアシステム社のWeb会議システム「LiveOn」と連携し、海外を含む26拠点に参加人数に応じたヤマハのマイクスピーカーを設置。特に現場間の日常的な打ち合わせに頻りに活用されている。

# 「Web会議システム」と「マイクスピーカー」を全面更改。 26拠点間の会議利用実績が飛躍的に向上しました！

**PJP/YVC-1000 導入の背景**

**利用頻度を改善するために、会議システムを更改。**

- 26拠点をつなぐ会議システムの必要性
- 煩雑な設定・調整で現場の利用は低迷
- 解決策はLiveOnとPJP/YVC-1000

ソフトクリームを日本に初めて紹介した日世様は、コーンカップやフリーザーなどの関連資材を含めたソフトクリーム総合メーカーです。国内シェアはNo.1。直営店の運営や、大手乳業メーカーや流通各社へのOEM提供も行っていきます。同社は海外を含む26拠点で本店・支店・営業所・工場を展開しているため、早くから遠隔会議システムの導入を検討していました。そして2005年4月に他社製のビデオ会議システムを国内17拠点へ導入し、一定の成果を得ることができました。しかし初期設定や音声調整が煩雑だったため、現場での利用実績は停滞。またサーバーの社内設置が必要だったこと、音声品質に課題があったことなどから、システムの全面更改を検討しました。その結果、2009年6月にWeb会議システム「LiveOn」とヤマハの「PJPシリーズ」を、26拠点へ導入しました。

**PJP/YVC-1000 を選択した理由**

**優れた操作性と集音力、コスト面に優位性。**

- 簡単操作のWeb会議LiveOnを選定
- 集音能力とコストなどでPJPシリーズを選定
- 参加者が多い本社会議室へYVC-1000を導入

同社では会議システムの全面更改にあたり、複数の製品を比較検討しました。LiveOnが選定された理由は、地域防災システムなどの公的機関の導入実績があり信頼性が高いこと、煩雑な設定・調整が不要で操作が簡単であること、回線状態が不安定な海外拠点でも十分に対応できること、などでした。またマイクスピーカーとしてPJPシリーズが選定されたのは、マイクとスピーカーが一体で設置が簡単であること、集音能力が高いこと、小規模拠点でも導入しやすい手頃な価格だったこと、などでした。そして2014年7月には本社会議室で使われていたPJP-50USBをYVC-1000に刷新。マイクとスピーカーが分離されたYVC-1000により、参加人数にとらわれない高い集音力と、映像と音声为一体となった臨場感あふれるクリアな音声での会議が可能となりました。

**PJP/YVC-1000 導入の成果**

**優れた操作性でWeb会議の開催回数が約7倍に増加。**

- Web会議の運用コストが削減
- 出張経費の削減と業務生産性の向上
- 情報共有の深化と意思決定の迅速化

LiveOnとPJP/YVC-1000シリーズへの更改により、Web会議の運用コストが削減されるとともに、同社のWeb会議利用実績は飛躍的に向上しました。更改前年の2008年度が49回だったのに対し、2013年度は364回のWeb会議が開催されました。その結果、出張経費や時間が削減されたばかりではなく、業務生産性も大きく向上しました。利用頻度が高まった最大の理由は、LiveOnとPJP/YVC-1000の簡単な操作性にあります。いつでも、誰でも、気軽に参加でき、また部門を横断する会議も日程調整が容易になりました。現場から多くのメンバーが参加することで情報共有の度合いが深まり、意思決定のスピードアップにも貢献しています。同社では今後もYVC-1000などを拡充することで、より高品質で臨場感のある会議のあり方を追求していく予定です。

ユーザー様の声

もっと早くヤマハのマイクスピーカーが  
出会いたかったと思います。

LiveOnとヤマハのマイクスピーカーに満足しています。システム更改の目的はすべて達成できました。実はPJPシリーズを導入する前年、10人を超える会議での集音力を高めるために、スタンドマイク5台とミキサーセットを高額で購入していました。ところがPJP-50USBが1台あれば、ほぼ同等の能力があることがわかり、それらは廃棄することになりました。もう1年早くPJPと出会っていたら、と後で悔しい思いをしたことを思い出します。



日世株式会社 情報システム部 次長  
坪倉 卓二 様

こんなに簡単に会議のセッティングが  
できることに驚きました。

LiveOnとPJPシリーズが導入される以前は、1ユーザーとして会議システムを利用する立場だったのですが、とにかくセッティングが大変でした。システム更改の後に感じたのは「なんだ、こんなに簡単にできるんだ」ということです。音声も非常にクリアで、以前はハウリングなども発生していたのですが、すべて解決しました。ヤマハのマイクスピーカーを高く評価しています。



日世株式会社 情報システム部  
運用管理課 課長補佐  
道慶 晋次 様

Web会議の活用状況が一変、  
とても大きな成果でした。

以前のビデオ会議システムには大きな期待を抱いて導入したのですが、残念ながら現場へは浸透しませんでした。それがLiveOnとPJPシリーズに代わったとたんに、現場間で日常的な打ち合わせ会議が頻繁に行われるようになりました。大きな成果だと思えます。今後はWeb会議システムの品質をより高め、社員全員へのライセンス



配布を検討するなど、さらに有効な活用方法を追求していきたいと考えています。  
日世株式会社 情報システム部  
運用管理課  
大坪 一博 様

販売パートナー様の声

ヤマハの音声品質には、  
絶対的な信頼がありました。

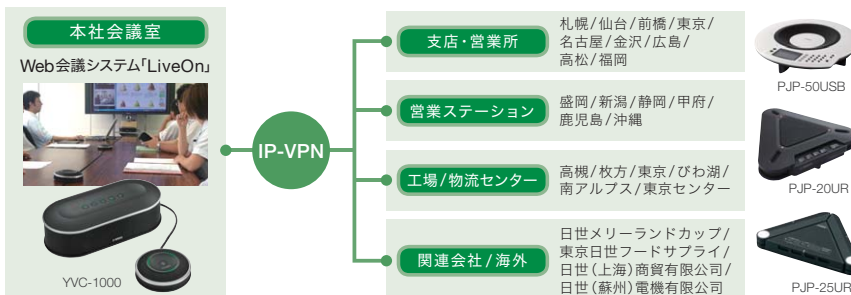
システム更改当時、日世様はすでに遠隔会議システムを導入されていたので、求められる要件も明快でした。まず設定に手間がかからないこと、そして画像や音声の品質を良くすること、の2点でした。ヤマハのPJPシリーズの音声品質には絶対的な信頼があったので、迷わずLineOnとの連携を提案したのです。今後、Web会議は電話に変わる必須ツールになると思います。新しい用途開発などをこれからも進めていきます。



ジャパンメディアシステム  
株式会社  
大阪営業所 係長  
吉川 秀一 様

日世様の遠隔コミュニケーション

- 本社側では10～15名の出席者が「コの字」型のテーブルに着席。大型モニターの前にYVC-1000の本体スピーカーを設置することで臨場感あるクリアな音声を実現しています。またマイクを2台連結させ、大人数が参加した場合でも高い集音力を発揮しています。
- 25拠点では、支店と工場にPJP-50USBが7台、それ以外はPJP-20UR/25URが18台設置されており、高品質でクリアな音声中で円滑な遠隔会議を行っています。



○海外を含む26拠点を結び、活発なWeb会議が行われています。  
○会議の参加人数により、YVC-1000とPJPシリーズを使い分け、「LiveOn」との連携で円滑な遠隔会議が開催されています。

〈日世様の会社概要〉

- 設立: 昭和22年5月20日
- 資本金: 4億950万円
- 代表者: 代表取締役社長 田中 稔章
- 社員数: 694名
- 事業内容: ソフトクリームに関連資材(コーンカップ・ミックス・機械類)の製造販売、乳製品(ホイップクリーム)の製造販売、フルーツプレパレーション(フルーツ調整品)の製造販売

<http://www.nissei-com.co.jp>



YVC-1000の製品情報はこちら

<http://jp.yamaha.com/products/communication/>

●本資料に記載された製品名および企業名は、各社の商標です。



感動を・ともに・創る

製造元  
ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中区中沢町10-1  
2014年10月作成

音声コミュニケーション機器お客様相談センター

■ お電話によるお問い合わせ先 ☎03-5651-1838 ■ FAXによるお問い合わせ先 📠053-460-3489

ご相談受付時間 9:00～12:00 13:00～17:00(土・日・祝日、弊社定休日、年末年始は休業とさせていただきます。)

メールでのお問い合わせはこちら

<http://jp.yamaha.com/products/communication/support/>